

二本松市文化財調査報告書第25集

平成15年度市内遺跡試掘調査報告書

二 本 松 城 址

馬 場 平 遺 跡

上 竹 遺 跡

石 畑 遺 跡

平成16年 3 月

二 本 松 市 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、平成15年度国庫補助事業として二本松市教育委員会が実施した市内所在遺跡における試掘調査の結果をまとめたものである。
2. 出土遺物の整理については桑原尚子、門馬久子（二本松市教育委員会文化課社会教育指導員）の協力を得た。
3. 遺物の実測は門馬が、拓本は桑原が担当した。また遺構遺物のトレース、挿図・版組は中村が担当し、その修正は桑原、門馬の協力を得た。
4. 本報告書の執筆は中村が担当した。

凡 例

1. 測量における基準は任意として仮標高を設定し、遺構実測図の方位はすべて真北を使用した。
2. 遺構実測図のうち断面図に示した数字は仮基準を用いた仮標高であり、平面図のアルファベットは対応する断面図の位置を表している。また断面図のみの場合のアルファベットは方向を表す。
3. 遺構・遺物については図ごとに縮尺を示した。
4. 遺物実測図における遺物の寸法における単位はcmおよびgで、（ ）のあるものは残存長を示す。
5. 本文中で使用した略号は次のとおりである。 T…トレンチ SK…土壌 P…ピット

目 次

例言・凡例

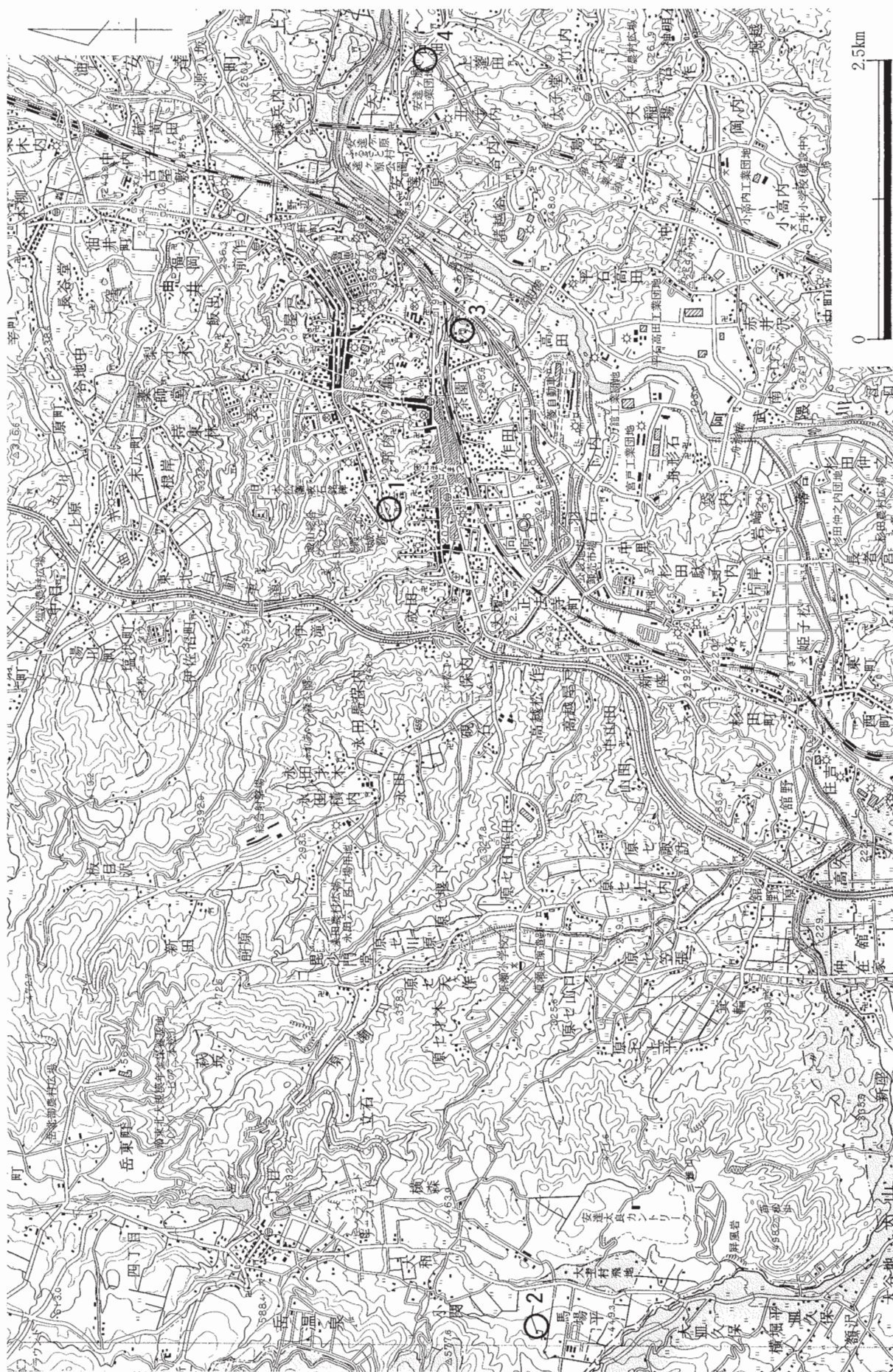
| | | | |
|-----------|---|----------|---|
| 第1編 二本松城址 | 1 | 第3編 上竹遺跡 | 6 |
| 第2編 馬場平遺跡 | 4 | 第4編 石畑遺跡 | 6 |

挿 図 目 次

| | | | |
|------------------|---|---------------------|----|
| 第1図 市内遺跡試掘調査地位置図 | | 第7図 上竹遺跡出土遺物実測図 | 6 |
| 第2図 二本松城址調査位置図 | 1 | 第8図 石畑遺跡調査位置図 | 7 |
| 第3図 馬場平遺跡調査位置図 | 3 | 第9図 石畑遺跡出土遺物実測図（1） | 9 |
| 第4図 馬場平遺跡2 T実測図 | 3 | 第10図 石畑遺跡出土遺物実測図（2） | 10 |
| 第5図 上竹遺跡調査位置図 | 4 | 第11図 石畑遺跡6 T実測図 | 11 |
| 第6図 上竹遺跡1 T実測図 | 5 | 第12図 石畑遺跡要保存範囲図 | 12 |

図 版 目 次

| | |
|-----------------------|------------------------|
| 図版1 二本松城址2 T精査状況 | 図版9 石畑遺跡6 TP2 検出状況 |
| 図版2 馬場平遺跡2 T精査状況 | 図版10 石畑遺跡6 TSK 02 半裁状況 |
| 図版3 上竹遺跡1 T精査状況 | 図版11 二本松城址・馬場平遺跡出土遺物 |
| 図版4 石畑遺跡2 T南壁セクション | 図版12 上竹遺跡出土遺物 |
| 図版5 石畑遺跡3 T精査状況 | 図版13 石畑遺跡出土遺物（1） |
| 図版6 石畑遺跡6 T遺構検出状況 | 図版14 石畑遺跡出土遺物（2） |
| 図版7 石畑遺跡6 T精査状況 | 図版15 石畑遺跡出土遺物（3） |
| 図版8 石畑遺跡6 TSK 03 半裁状況 | |



第1図 市内遺跡試掘調査位置図 (1 - 二本松城址、2 - 馬場平遺跡、3 - 上竹遺跡、4 - 石畑遺跡)

平成 15 年度の試掘調査（第 1 図）

平成 15 年度は 4 件の試掘調査を実施した。個人住宅に係るものが 1 件、共同住宅が 2 件、道路改良に係るものが 1 件でありいずれも小規模な調査であったが、石畑遺跡で弥生土器が出土したことが特筆されよう。以下、遺跡ごとに結果を報告する。

第 1 編 二本松城址（第 2 図、図版 1・1 1）

遺跡の環境（第 2 図） 市街地の北西約 1km に位置する標高約 345 m の独立丘陵を中心に営まれた平山城で、本丸がおかれた独立峰を中心に、南・北・西が丘陵で囲まれ東方が開口したいわゆる“馬蹄形城郭”といわれる堅固な城である。現在大部分が公園であるが、山裾部は宅地として利用されている。当城址は嘉吉元年（1441）以降、畠山満泰によって築造されたといわれ、寛永 20 年（1643）以降は二本松藩丹羽家の居城となり幕末を迎える。平成 10 年度からは、保存管理計画に基づく資料収集のための学術調査が年次計画で実施されている。

所在地 二本松市郭内三丁目 339-1 の一部、339-2 の一部

開発面積（調査面積） 280.4（24）㎡

調査期間 平成 15 年 4 月 14 日（月）1 日間

調査原因 集合住宅建設

調査担当 中村真由美（市教育委員会文化課）

調査概要

調査区は遺跡範囲の南部に位置し、侍屋敷が所在したと考えられる城下部分にあたる。江戸期の町割とほぼ同じ位置である東西に延びる道路の南側にあり、この道路は東から西へ緩やかに上る。現況は平坦な駐車場で、調査区の大部分は道路より 1 軒分南側の約 18 × 11 m の東西に長い長方形を呈している。北側は宅地に接し、これより 1.5 ～ 2 m 高く、東側も宅地でこれより 1.5 ～ 1.8 m 高い。また、西・南側はほぼ同じ標高で、それぞれ



第 2 図 二本松城址調査位置図

駐車場及び集合住宅が所在する。この集合住宅の裏手は観音丘陵へと続く傾斜地となっており、この集合住宅建設の際、山側の高所にあわせて盛土をした結果、現況のような地形を呈したものと予想された。

現況に合わせて 2 × 10 m のトレンチ（1 T）、2 × 5 m のトレンチ（2 T）と 2 つのトレンチを設定して調査を実施した。調査の状況から、1 T は 2 × 7 m に縮小した。

基本層序は 3 層で、L 1：盛土層①（10 Y R 6 / 4）、L 2：盛土層②（10 Y 3 / 2）、L 3：旧生活面（グライ層 10 Y R 2 / 2）の順に堆積している。L 2 と L 1 は類似し、いずれも山砂でおそらく同質の盛土が時期の差および湧水状況の差により変化したものとみられる。グライ化した層からは湧水する状況がみられた。

1 T（図版 11）

調査区中央南よりに設定した東西に長いトレンチである。2 T の調査状況から 2 × 7 m に縮小した。現況はほぼ平坦かつ水平である。深さ約 175 cm を測って L 3 に至り、やや西へ傾斜することがわかる。基本層序

どおりに堆積し、L 3 から湧水する状況がみられ、遺構は検出されなかった。L 1、L 2 の盛土が非常に崩れやすいため、地山面までの掘削は行わなかった。

出土遺物はL 3 から磁器片 1 点（図版 11 a）が検出されている。

2 T（図版 1・11）

調査区のほぼ中央に位置し、1 T の北辺に接して南北に長く設定した 2 × 5 m のトレンチである。現況は北へやや傾斜し、トレンチ北端から 50 cm より北は急斜面となる。L 1 のみの堆積がみられ、L 2 はトレンチ南端に段をなして堆積する。L 3 までは地表面から約 175 cm で、平坦かつ水平である。

遺構は溝跡が 1 条検出されているが、堆積土は L 1 と同様であるため、L 1 の盛土をした時期まで開口していたことがわかる。遺物は磁器片 1 点（図版 11 b）が L 3 上面より出土しているが、小片であり詳細は不明である。平瓦片 1 点（図版 11 c）が出土し、L 3 上面が江戸期の旧生活面とみられる。

L 2 の堆積状況より、L 1 と L 2 は盛土をした時期が違うことが推察される。すなわち調査区内南部のみ L 2 の盛土により北側より一段高い時期があり、その後 L 1 が調査地全体に盛土され現況を呈したものと考えられる。溝跡は L 2 を盛土した境界に位置するため、この時期に排水路として設置された可能性が考えられる。出土遺物がないため、L 2 を盛土した時期は不明であるが、L 1 と同質の土砂であることから、現代に入ってから盛土と考えられよう。また、盛土以前の深さ、すなわち L 3 上面は、調査区北側に接する宅地の標高とほぼ一致することが判明した。

調査結果

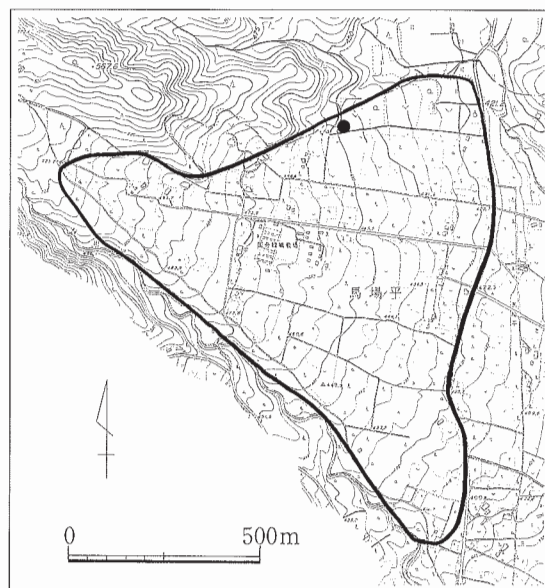
今回の調査範囲において江戸期の遺構はみられなかった。湧水する状況がみられることから、建造物は礎石立ちであったことが推定される。遺物は少ないが、瓦片が出土していることから、建造物の存在を否定できない。したがって、既に礎石等の遺構は破壊を受けているものと判断され、おそらくは、瓦葺・礎石立の建造物が存在していたことが推察される。

以上のことから当該区域には遺構は検出されず、過去に存在していたとしても、北側に所在する宅地の建築の時期に破壊された可能性が高いと判断された。

調査後の対応 本調査は必要ないものと判断し、慎重に施工するよう依頼した。

第 2 編 馬場平遺跡（第 3・4 図、図版 2・11）

遺跡の環境（第 3 図） 標高約 425 ～ 520 m、西から東へ傾斜して広がる扇状地に位置する。遺跡範囲は南北 1.3 × 東西 1.1 km の三角形を呈し、北側には安達太良山より連なる尾根が延び、南西側に南流する杉田川が接する。現在は住宅が点在し、大部分が牧草地に利用されている。縄文時代前期および古墳時代の散布地として登録されているが、前台帳（昭和 35・49 年）によれば本来 3 つの遺跡であり、前述の扇状地のなかに点在する形で確認されている。現在遺物の散布は少なく、開墾等により破壊された可能性が指摘されている。平成 13 年度における試掘調査の際も、縄文前期の遺物が検出されたが遺構は検出されず、この地点における遺構は既に破壊を受けていることが確認されている。



第 3 図 馬場平遺跡調査位置図

図版1 二本松城址
2 T精査状況 (北より)



図版2 馬場平遺跡
2 T精査状況 (南西より)



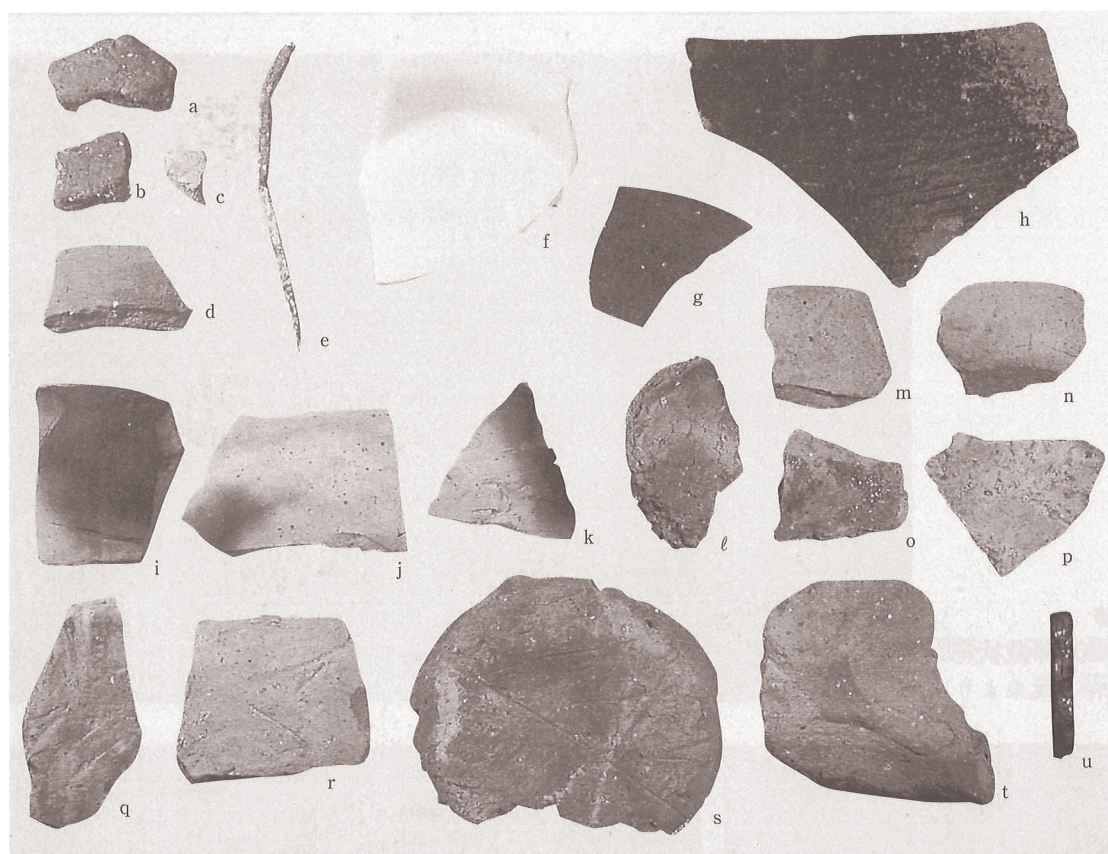
図版3 上竹遺跡
1 T精査状況 (南西より)





- a ~ c - 二本松城址
 a - 1 TL 3
 b · c - 2 TL 3 上
 d ~ g - 馬場平遺跡
 d ~ f - 2 TL 1
 g - 2 T 表 採

図版 11 二本松城址・馬場平遺跡出土遺物



- a ~ c - 1 TL 1
 d · e - 1 TL 2 - 1
 f ~ l - 1 TL 2 - 2
 m ~ p · u - 2 TL 1
 q ~ t - 2 TL 2

図版 12 上竹遺跡出土遺物



図版 13 石燭遺跡出土遺物 (1)
 粉痕土器 (6 TL 4)

報 告 書 抄 録

| | | | | | | | | |
|--------------------|------------------------------|----------|----------|-------------------|---------------------|---------------------------|--------------------|------|
| ふりがな | へいせい15ねんどしないいせきしくつちょうさほうこくしょ | | | | | | | |
| 書名 | 平成15年度市内遺跡試掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 二本松城址 上竹遺跡 馬場平遺跡 石畑遺跡 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 二本松市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第25集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 中村真由美 | | | | | | | |
| 編集機関 | 福島県二本松市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒964－8601 福島県二本松市金色403番地の1 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2004年 3 月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| にはんまつじょうし 二本松城址 | かくな 二本松市郭内 | 07210 | 00019 | 37° 35′ 35″ | 140° 26′ 05″ | 20030414 | 24㎡ | 集合住宅 |
| ばばたいら 馬場平 | ばばたいら 二本松市馬場平 | 07210 | 00008 | 37° 34′ 51″ | 140° 21′ 03″ | 20030528 | 20㎡ | 個人住宅 |
| じょうたけ 上竹 | じょうたけ 二本松市上竹 | 07210 | 00030 | 37° 35′ 15″ | 140° 27′ 11″ | 20030529 } 20030530 | 42㎡ | 集合住宅 |
| いしはた 石畑 | いしはた 二本松市石畑 | 07210 | 00033 | 37° 35′ 26″ | 140° 28′ 48″ | 20031020 } 20031024 | 75.5㎡ | 道路改良 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主 な 遺 構 | | 主 な 遺 物 | | 特 記 事 項 | |
| 二本松城 | 城館 | 近世 | | | 瓦 | | | |
| 馬場平 | 散布地 | 平安 | | | 須恵器 | | | |
| 上竹 | 散布地 | 平安 | | | 須恵器 土師器 簪状銅製品 | | 遺跡範囲がより明確となる | |
| 石畑 | 散布地 | 縄文 弥生 | 竪穴住居跡 土坑 | | 縄文土器 弥生土器 | | 市内で初めて調査に伴う弥生土器を検出 | |

二本松市文化財調査報告書 第25集

平成15年度市内遺跡試掘調査報告書

平成16年3月31日発行

編集・発行 福島県二本松市教育委員会

福島県二本松市金色403番地の1 TEL0243-23-1111

印刷 株式会社 山川印刷所

福島県福島市庄野字清水尻1-10 TEL024-593-2221

©2004